

明日はいよいよテスト発表です。2年生初めての9教科。テスト範囲も、かなり広くなりそうです。計画的に学習を進めましょう。

平和学習を進めています。

初めに見た『夏服の少女たち』というビデオは、アニメーションも使いながらの比較的見やすく、かつ当時の内容も理解しやすいものでした。今回見た『その日、きのこ雲の下で何が起きていたのか』は、2015年に放送されたNHKスペシャルです。以下、番組の紹介文を載せます。

1945年8月、広島を壊滅させた原爆投下。巨大なきのこ雲の下の惨状を記録した写真が世界でたった2枚だけ残っている。投下3時間後、爆心地から2キロのところにある「御幸橋」の上で撮影されたものだ。NHKは居合わせた被爆者の証言、最新の映像技術や最新科学をもとに、50人あまりが写る写真の真実に迫った。原爆特有のやけどを負っていた皮膚や今にも亡くなろうとしている人々…。そこはまさに「生と死の境界線」だった。

この映像には、衝撃的なシーンも含まれています。先生たちとしては、「これが現実」ということを、正しく知ってほしい。その上で、平和への願いを高めてほしいという気持ちで、この映像を選びました。ちなみに広島平和記念資料館の入り口には、今回検証した写真が、大きく展示されています。

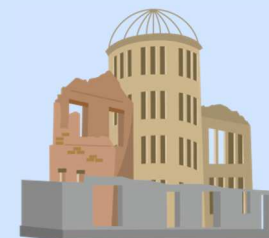


みんなの感想を、一部ですが紹介します。本日(2/14)のクラス会議では、2つのビデオを見て感じたことや考えたことを、皆さんで交流しながら、『私の中の平和』について考えてもらいます。まずはクラスみんなの思いを聞きながら、自分の考えを整理していきましょう。

・怖い。見ているだけで涙が出てきそうなくらい。これが本当にあったと思うと、当時いた人たちは今の私より怖く、痛い思いをしていたと思う。見ただけなのに、手がめっちゃ震えて、力が入らない。平和とは、誰もが安心して恐怖がないことだと思う。原爆だったり、その後の奪われなくていい命が奪われる。そんな世界で安心して暮らすことができる人はいないと思う。原爆が終わっても苦しむ人たちは、今も平和ではないと思う。そんな世界はもうあってはならないと思う。

・この悲しい出来事を、あとからこうやって思い出しただけでもつらいと思うのに、この出来事をみんなに伝えたい思いで語ることができるということが、表現しきれない気持ちになりました。くだらないケンカをしたり、くだらないことで笑うことができたりするのが、何よりの平和だと思った。戦争中に生まれてきたこのことを考えたら、この平和を知らないというのが何よりも悲しいです。

・1つの原爆でたくさんの命を奪って、たくさんの人を痛めつけたんだなあと思うと、正直こわかった。生きてくても生きられない人々の気持ちは、その人にしか分からないが、あんな亡くなり方をして、ホントに悲しいことだと思う。命の奪い合いなど、絶対にしてはいけないと思った。



・写真を映像化したものに、一番衝撃を受けました。何度も見られない部分があって、被害にあった人は私が見られなかった衝撃的な部分が目の前にあったのだと思うと、こわかったです。生きていることはとてもうれしいはずなのに、原爆・戦争によって「どうして生きているのだろう」「どうして助かったのだろう」「闘値得ることが申し訳ない」って思わされてしまう現実がとてもつらいと思いました。私はこうやって、伝える人たちがいるからこそ、戦争がいけないということが学べると思います。

・カメラマンの松島さんは、「後世に伝えなければ」という思いでシャッターを切ってくれた。おかげで自分達にも伝わっている。この悲しさ、苦しさを伝えてもらった自分たちは、「核」を(世界から)なくす必要があると強く感じた。子どもたちが多く死んだことに驚いた。自分に当てはめて考えてみたが、ありえなさ過ぎて考える、想像することさえできなかった。周りの人、友達を置き去りにして逃げられるかと考えてみたが、つらいととても感じた。

・これが現実で起こっていたと思うと、怖すぎる。自分と変わらないような人たちが、何もしていないのにひどい目に合うということは、絶対にあってはダメなこと。自分がそういった状況ならどうするか、想像してみても、途中であきらめてしまう気がする。



・原子爆弾は一瞬で人を殺し、焼いていった。そのようなものを落としていくのもアメリカ軍の人たちもどうなのかと思った。これほどの威力とわかっていたら、落とすのは中止しておいてほしかった。これほど大変な傷(被害)になるとわかったので、今までよりもさらに、このような事態は二度とないようにしていかなければならないと思った。

・恐ろしいと思いました。強い爆風で建物が壊されてしまったり、吹き飛ばされてしまったりすることも知り、家事や放射線だけでないことが分かりました。被爆した人たちが水を求めることは知っていたけど、その理由が原爆によって体中の水分が水蒸気になって出ていってしまっていることで起こることを初めて知りました。原爆の強さと残酷さを感じました。

・あの日被爆した人たちは、今も原爆による傷などが残った体で、周りの人を助けられなかったという深い悔いを残して後の時代に必死で伝えながら生きていると思うと、今までの考え方じゃいけないなと思った。また写真に焼き付いているのは、70年経っても人々の記憶から、今日まで忘れられたことのない深い絶望だと思うと、実際に経験したわけでも少しその気持ちがわかる気がした。核兵器がもたらしたすべてのことを、決して忘れてはいけないんだと改めて思うことができた。

N
WAR

今後の予定も含めて...

今日のクラス会議では、それぞれが感じた『平和』というテーマで自分の考えや、ビデオなどを見て感じたことを語り合ってもらいます。

ところで右の写真の像のことを知っていますか？ これは、『原爆の子の像』。広島平和記念公園内にあり、例年の三滝中3年生は、この像の前で折り鶴(事前にみんなで鶴を折り、千羽鶴にします)を奉獻するセレモニーを行い(3年前は実行委員会の司会のもと、「群青」の合唱をしました)、この後、元安川(ビデオにも出てきた、原爆投下後に水を求めて人々が集まってきた川)のほとりで、原爆ドームに向かって「ハナミズキ」の合唱をしています。



なぜ、折り鶴なのかと疑問に思う人もいるでしょう。そんな人は是非、『佐々木 禎子(ささき さだこ)』という名前について、調べてみましょう。平和資料館の資料の一部を紹介しておきます。

さだこ
禎子さんが生きた4675日
ささきさだこ
佐々木禎子さんは1943(昭和18)年に生まれ、2歳の時に被爆しました。
運動の得意な元気な少女に成長しましたが、被爆から10年後に突然
白血病であると診断され入院しました。
千羽鶴がお見舞いに贈られたことをきっかけに、
「生きたい」という願いを込めて折り鶴を折り始めます。
8カ月の入院生活の末、家族が見守る中亡くなりました。

被爆から10年後。活気の戻ってきた広島で亡くなった一人の少女。当然亡くなったのはこの少女だけではなくたわけですが、爆風で亡くなった人だけでなく、放射線の影響で苦しんだ人たちがいたことも、私たちは忘れてはいけません。

知識として平和に関する学習をするだけでなく、自分の感じたことなどを人に伝えることで、自分の感じたことを整理していきましょう。